

令和 6 年度第 1 回デジタル地域通貨利用促進委員会会議録

1. 開催日時
令和 6 年 7 月 23 日（火） 10 時～ 12 時 15 分
2. 開催場所
名取市役所議会棟 3 階第 1・2 委員会室
3. 出席者
宮崎委員、熊谷委員、来栖委員、松野委員、赤間委員、千葉委員、佐藤委員、小平委員
4. 欠席者
小畑委員
5. 出席者
（委員長要請による出席者）
㈱NTT カードソリューション：竹崎グループ長、川原崎課長、
（リモート）興野大將、
NTT 東日本㈱：村田顕生、久保課長、谷平一久、（リモート）原田駿一、
菅原史明
名取市商工会 渡邊課長、菊地主事
（事務局）
DX 推進室 成田室長、新開室長補佐、菅原主査、今野主査、伊藤主事
6. 傍聴者
0 名
7. 委嘱状交付
名簿順に名前を読み上げ、代表受領として、名取市長（代理 我妻副市長）から
宮崎義久 氏に交付
8. 市長挨拶（代理 我妻副市長）
 - ・ R5 年 3 月：名取市 DX 推進ロードマップ（地域版）を制定し、「市民の利便性向上」「社会課題の解決」「新たな価値創造」に取り組んでいる。
 - ・ 8 月 1 日から本格運用する「なとりコイン」はデジタル地域通貨の仕組みを活用したインセンティブ付与等により「地域経済の循環」「住民の行政参画」「市民の利便性向上」を目的にしている。
 - ・ そのために「なとりコイン」の利用促進を図る。これまでは検討会で事業実施の課題整理をしてきた。本格運用開始に合わせて様々な立場の方々から意見をいただくために当委員会を立ち上げた。
 - ・ 今年度は 7 回程度の委員会の開催を予定している。委員の方々には忌憚のない意見、提言をいただきたい。
9. 傍聴者の報告及び会議の記録方法の確認
 - ・ 本委員会は公開対象とし、本日の傍聴者は 0 名。
 - ・ 委員名記載の要点筆記で後日公開することを報告。

1 0. 委員長の選任について

- ・仮議長として我妻副市長の進行により、互選の方法について委員へ意見を募ったところ、「事務局一任」という声が上がった。事務局案を提示したところ、委員より「異議なし」の声があり、事務局案で決定した。

(事務局案) 委員長・・・宮崎義久 委員
～これより宮崎委員長の司会のもと進行～

1 1. 副委員長の選任について

- ・委員長より互選の方法について委員へ意見を募ったところ、「事務局一任」という声が上がった。事務局案を提示したところ、委員より「異議なし」の声があり、事務局案で決定した。

(事務局案) 副委員長・・・小平英俊 委員

1 2. 議事内容

- (1) なとりコインの概要について・・・【資料 1】
- (2) 実証実験の結果について・・・【資料 2】 【資料 2-2】
- (3) 利用者アンケートの結果について・・・【資料 3】
- (4) 加盟店アンケートの結果について・・・【資料 4】
- (5) 本格運用開始に伴う変更点について・・・【資料 5】 【資料 5-2】 【資料 5-3】
- (6) 年間スケジュールについて・・・【資料 6】

- ・事務局等より、なとりコインの概要説明並びに実証実験、利用者アンケート、加盟店アンケートの結果報告、本格運用開始に伴う変更点及び年間スケジュールを説明。

1 2. 質疑応答等

(委 員)

- ・「なとりコイン」として愛称を応募された方にロゴデザインまで選んでいただいたようだが、地域通貨のロゴデザインの選定方法として正しい選択だったのか。観光客受けがよく、名取市民が誇りを持てるようなデザインを選定すべきだったと思う。

(委員長)

- ・他の自治体では愛称募集まではあまり行われていない。広く市民に呼び掛けたが、その後のプロセスは時間との戦いでもあった。

(事務局)

- ・市民等に広く名取市のデジタル地域通貨の取り組みを知ってもらい利用促進を図るために愛称を募集した。12 月にシステム構築事業者等の選定と同時並行で愛称募集を行い、2 月 6 日に愛称選定委員会を開き「なとりコイン」を選定した。スケジュール的にだいぶタイトとなり市民等への周知が十分に行き渡らなかった部

分や愛称やロゴ選定に時間をかけられなかった部分もあったので、今後はいただいた意見を参考にしっかりやっていきたい。

(委員長)

- ・今後リニューアルとかあれば新しいデザインにアップデートすることも出来ればよい。

(委員)

- ・決済手数料（1.65％）に関しては名取市が本格稼働開始後 2 年半ぐらい負担するのは自治体主導のデジタル地域通貨として一般的なのか、又、その後延長する予定か。

(事務局)

- ・手数料に関しては、実証期間中は 1.65%を徴収する仕組みで実施した。内訳としてシステム手数料を 1.1%、還元分として 0.55%となる。又、実証実験中は市からデジタル地域通貨の付与のみで個人からチャージはできない仕組みとなっていることから還元分 0.55%は徴収しないことに変更した。なお、加盟店からの負担 1.1%もハードルが高いとの意見があり、実証実験中は商工会が負担することに変更した。8 月 1 日以降の本格稼働では、なとりコインの加盟店と流通量を増やすことを目的として、市側で 1.65%を令和 8 年度末まで負担することにした。その後の取り扱いは、現時点では未定となる。

(委員長)

- ・広く加盟店に参加してもらうためにインセンティブとして負担を少なくしてスタートすることに変更した。「なとりコイン」はスマホと QR カードの 2 つの決済方法を併用しており、他地域ではない事例で、高齢者にも参加してもらえるきっかけになる。

(委員)

- ・実証実験中の QR カードタイプの利用者の年齢層は。

(事務局)

- ・質問頂いた内容のクロス集計までは分析していない。QR カードタイプの配布場所として、主にかわまちてらすや閑上港朝市で配布したので、その場で申し込みをしていただいていたたり、又、高齢者でカードタイプを申込んでいた方には直接郵送したので、その人たちがどのぐらい利用したかは、現時点ではまとめきれていない。

(委員)

- ・利用店舗の開拓を中小企業から始めていけばいずれ大企業にも波及し増えていくのではないかという見立てと、利用者側の目線で見ると、利用者への周知を十分に実施すべきと思うが、両方実施するには人的にも大変なのかと思う。ある程度の絞るべきだが、アンケート結果で割と不満、強く不満と回答していただいているのが中小企業という結果となるので、まずはこのあたりからせめていくべきなのか工夫は必要かと思う。その辺の制度設計みたいなところを、データを用いて可視化してくると、課題が見えてくるのかなと思う。

(委員長)

- ・アンケート調査で 73%が地域通貨を知らないという結果であったので、まずは実証実験で地域通貨というものはどのようなものかというところを、実際に利用して知っていただくきっかけづくりとして、スタートしたというところもあると思う。利用者を増やして、事業として維持できるようにするためにも、地域通貨を行政

側から事業参加者へ付与し使ってもらおうというところもありつつ、使える店舗がないと利用できないということになりかねない。両輪で利用者と利用店舗をどのように増やしていくのかというところもあるし、店舗同士のネットワークとか繋がりをどのように作っていくのかというのも含めて地域通貨の事業を実施していくべきかの制度設計を住民の人たちにきちんとわかりやすく説明していくというところを、まずは丁寧にやっていく必要があるのかなというふうに思っている。

(委員)

- ・アンケート調査は集計側の意図をくみ取って、好意的に回答するという話を聞いたことがある。それを踏まえてアンケート結果を確認すると否定的な意見が多いと感じた。システムが使いづらいとか難しいとか早急には改善が困難なところがあると思う。決済時の音は Web ブラウザベースのサービスで強制的に鳴らすことは可能なのか？

(委員長要請による出席者)

- ・決済が完了したことを利用者と加盟店が確認できるように音を鳴らす機能を追加したが、利用者がマナーモードに設定した場合には音は出ない仕組みとなる。

(委員長)

- ・システム面の改善要望はカードソリューションに伝えていく。システム改善が難しいところは店舗側の協力を得てオペレーションで対応していただく。

(委員)

- ・モニター実証実験参加店舗 44 店舗の半数が閑上の店舗となる。まずはアンケート調査での不満の声を改善して欲しい。紙ベースの商品券は店舗側で受け取るだけとなり集計は大変。一方、地域通貨はお客様を待たせて目の前で煩雑な処理をするのに苦慮するのと、さらに店舗側に振り込まれる回数も少なくマイナス面が多い。かわまちてらすの開業時は、半数以上がキャッシュレスに対応していなかったが、5 年間かけて PayPay 等の利用率を上げてきたので、「なとりコイン」に参加することができたと思う。これまで事務局が時間をかけて PayPay の担当者を店舗側に紹介するなど、商業者にも満足してもらったうえで導入を図ってきた。「なとりコイン」はそれがなく、ハードルは高いと感じる。コード決済をなぜ利用するかは、それを導入することで、お客様が增えるからというのが根底にある。市としてどうしたらなとりコインの流通量を増やせるか検討してもらいたい。

(委員長)

- ・かわまちてらすのでは、何が課題となっているのか？

(委員)

- ・手数料を払いたくないというのが主な課題と理解している

(委員長)

- ・かわまちてらすの協力で加盟店が増えたのは大きかった。店舗への説明を個別にさらに丁寧にすすめていく必要がある。アンケート調査も店舗にヒアリングした方が良かったと思うが、時間がないということでアンケート調査方式になった。

(事務局)

- ・多くの加盟店に導入いただく前段で下地づくりに協力いただいたことに感謝する。市としてもなとりコインの利用者が増えるように PR と加盟店の開拓を両輪ですすめていく必要があると感じた。

(委員長要請による出席者)

- ・加盟店側のオペレーションが増える中で、加盟店になるメリットがないと申込店

舗が増えないというのはそのとおりかと思う。他の自治体での事例、合意形成は別途提供できると思う。

(委員長要請による出席者)

- ・「なとりコイン」以外の決済にも慣れていない店舗も多く、加盟店サイトへのログインすら出来ない店舗が多かった。加盟店開拓にあたっては 1 件ずつ回って丁寧に説明するしかないのかなと思う。事業が始まると消費者への対応も出てくるので時間がないが、工面してやっていきたい。

(委員)

- ・加盟店の拡大が中々進まない理由として、精算期間中の利用額が 5,000 円を超えないと振り込まれないというのがネックとなっていると思う。振込回数よりも 5,000 円という金額を下げる方が大事かと思う。利用額が 5,000 円を超えないといつまでたっても換金できないのではないか。

(事務局)

- ・利用額を 5,000 円にした理由は、振込手数料が加盟店負担となるため。利用額(5,000 円)を下げた方が良いかは、次回以降の委員会で意見をいただいて検討したい。

(委員長)

- ・今後の利用状況を見て、適正な金額を探っていきたい。

(委員)

- ・アンケートにイオンモールで使えたらという意見もあったが、WAON ポイントの方が還元率は高く、「なとりコイン」のメリットを打ち出さないと加盟店が増えないのではないかと地域通貨ということで還元率以外のインセンティブが必要と考える。さらに加盟店側の立場では、各種決済で支払や返品処理方法を覚えるだけでも大変となる。そのため店舗側のメリットがないと加盟店は増えないのではないかと。ただでさえ手数料を負担しなければならないのに、それを超えて参加するメリットやビジョンが必要と考える。

(委員長)

- ・「なとりコイン」は他の決済ツールと比較してもシステム上見劣りする部分がありうまみがない。地域内に循環させる、人々のつながり、店舗のつながり、それを地域で回して経済を潤すという導入動機を理解してもらいながら名取のことを考えていくファンを増やすことが大事。共感してもらえる店舗に協力いただくのが大事なポイント。

(委員)

- ・学校の購買など尖った使い方、子どもに持たせたいデジタル通貨とか、そういったニーズに絞って信頼を勝ちとるところからやるやり方もあると思う。又、回答してない店舗(47.8%)の方が気になる。そちらに広がらない課題があるのでは。基本理念を利用者や加盟店が同じ方向を向けるような取り組みが必要。

(委員長)

- ・アンケート調査に回答していない人の不満や意見を吸収する必要がある。又、特徴をどこに出すのかも難しくなっている。個別に検討できればと思う。

(委員)

- ・本委員会の前身となる地域通貨検討会では利用者や加盟店などの当事者が参加していない中での検討だったので、アンケート調査では様々な意見をいただく結果になったと思う。導入に至るまでのスケジュールも窮屈で、周知不足や実施まで

の時間がなかった。その辺にも力を入れていく必要を感じた。なとりコインの市のメリットとしては「市の施策に興味を持って参画いただく、研修参加への動機づけに使う」などがあるが、「地域通貨を商店街と住民を結びつけるコミュニケーションツールとして活用」「保育所の雑費の集金に使う」等の利用シーンを増やせること。そのため使い勝手を改善しつつ、その辺を委員会で話していただきたい。

(委員長)

- ・自治体の施策への参加を促すのも他の地域でもやられていない事例かと思う。具体体はどうやるかは委員会で引き続き検討できればと思う。

(委 員)

- ・ジェンダーの関係で、委員長が男性なら、副委員長は女性にするとか検討しなかったのか。

(委員長)

- ・委員の選定では配慮した。市民（特に主婦）の声を聞く機会を検討している。そういう感じでバランスが取れればと考えている。ぜひ皆さんで協力して地域通貨を育てていくために意見をいただければと思うので、引き続きよろしく願いたい。

12. 閉 会